

新オプション(婦人科) Q&A

<HPV 検査>

Q.HPV 検査は、なぜ必要なのですか？

HPV 検査を受けられた方の中で、HPV 陽性の方は、約 8%です。子宮頸がんは、大部分が HPV 陽性の方から発生します。HPV は、いぼをつくるウイルスで、150種類以上の型がありますが、子宮頸がんを引き起こす型は 13 種類です。中でも発がんのリスクの高い型は、16 型、18 型ですが、16 型は 10 年間で 17.2%の方が、18 型では 10 年間で 13.6%の方ががんへ進展するとされています。残る型は、10 年間で 2~3%ほどのがん進展率です。そのため、子宮頸がん発症のリスクを知ることができます。

Q.もし HPV 陽性だったら、どうすればよいですか？

HPV 陽性の型によっては1年以内にごがんへ進展することがあるので、慎重に経過をみる必要があります、HPV が陽性でも子宮頸部細胞診に異常がなければ、通常は1年後に子宮頸部細胞診と HPV 検査による経過観察が求められます。

Q.子宮頸がんのワクチンを打ちました。それでも HPV 検査を受ける必要はありますか？

ワクチンの種類により異なります。9価ワクチンでは、16 型、18 型を含めた約 90%のハイリスク HPV 感染を予防できるとされています。そのため、子宮頸部細胞診のみで良いと考えます。それ以外(2 価、4 価)のワクチンの場合は、ハイリスク HPV 感染を約 60~70%予防できるとされていますが、逆に考えると 30~40%はハイリスク HPV に感染する可能性があるため、子宮頸部細胞診に HPV 検査を併用することで検査精度があがります。

Q. HPV 検査が陰性だったら、子宮頸がん検査は受けなくてもよいですか？

子宮頸がんのほとんどは HPV が陽性ですが、まれに HPV が陰性のもの(子宮頸管内に発生する特殊な腺がんなど)もあるため、細胞診による診断が重要とされています。HPV が陰性でも定期的な子宮頸部細胞診をお勧めします。

Q. 推奨年齢は何歳から何歳までですか？

日本産婦人科医会では 30 歳~65 歳が推奨年齢とされていますが、希望があれば、年齢に関係なく検査を受けることは可能です。

Q.70 歳代です。HPV 検査陰性、子宮頸がん検査でも異常なしでした。何歳まで子宮頸がん検査は必要ですか？

HPV 検査は原則的には必要ないと思いますが、子宮頸部細胞診はご本人の希望で受けられますので年齢制限はありません。

<経腔超音波(エコー)検査>

Q. 経腔超音波(エコー)検査では、何の病気がわかりますか？

子宮や子宮付属器(卵巣、卵管)の腫瘍性の疾患を、極めて正確に診断可能です。例えば子宮の病気では、子宮筋腫(筋腫結節の大きさ、位置や数)、子宮内膜の厚み(子宮体がん疑い)の診断、子宮付属器の病気では、卵巣のう腫、卵管水腫、卵巣がん(疑い)などの診断が可能です。

Q. 経腔超音波(エコー)検査で卵巣がんが発見されるなら、卵巣がん腫瘍マーカー検査を受ける必要はありませんか？

経腔超音波(エコー)検査は腫瘍の形や大きさの把握が可能です。また、卵巣がん腫瘍マーカー検査は腫瘍の性質を確認できる重要な検査です。したがって、経腔超音波(エコー)検査に腫瘍マーカー検査を併用することで、卵巣がんに関しては精度の高い検査となります。

Q.ほかの産婦人科で治療中です。ここで検査を受けた結果を主治医に持っていくことはできますか？

経腔超音波(エコー)検査画像をお渡しすることは可能です。ただし、健診は健康な状態での検査をお勧めしているため、治療中・定期観察中の場合はかかりつけ医での検査を優先してください。